

平成10年 8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

おとぐろ 乙黒耕地の開田

平成6年10月1日発行の青梅市公報第775号に「乙黒耕地の弁天様」というタイトルで、富岡1丁目地内成木川沿いに広がる耕地の開田について、私の父から聴取調査をした内容の記事を掲載した。

その後の調査で、事実が一部違っていること、もう少し詳しい情報を提供しておきたい、と思い再び取り上げることにした。

私がこの耕地について取り上げるのは、江戸時代、河川に堰堤し開田した例はあちこちに見られるので、開田の敬意を知る参考となるだろうと思ったからである。

富岡1丁目地内の^{おちあいぶち}落合渚で、荒川の上流は黒沢川と成木川に分かれる。この成木川を遡ってすぐ右岸に耕地田(ニ毛作田)が広がる。乙黒耕地と呼んでいる。小曾木丘陵がつきる地点に近く、50mほどの崖下に、南北に細長く、東西に狭い面積は約3.8ヘクタールの水田である。江戸時代、成木川の氾濫原を開田したものであるらしいことは前々からわかっていた。

この乙黒耕地のほぼ中央に5mほどの方形の塚がある。周囲は大きな石で組まれ、小石が積まれて塚状をなしている。この頂上に二基の石碑が置かれている。

一基は高85cmの自然石で、全面中央に「奉待大辨才天供養」、その右に「享保十一年多摩郡」、左に「丙午十一月富岡村」と文字だけが刻まれている。

もう一基は高39×20cmの台石に、高78cm、幅35cm、厚23cmの伊奈石がおかれ、その正面中央には仏像が彫られ、右に「宝暦十一年己年」、左に「十二月吉日」とあり、正面下方に富岡村、常秀院、横手某、不詳某、市川某、山崎某、青田某、青田某、久下某、安藤某、久下某、岩田某、横手某、横手某、市川某、青木某と15名の寺と農民名が彫られている。

生前、父の話から、乙黒耕地にはオオシタボリ、ナカボリ、シンデンボリと呼ばれる三つの堀があって、開田時期が同じではないらしいことを教わっていた。

今、実地路査をしてみると、オオシタボリは崖に近いところを通水し、これによる水田は総面積も狭く、他の水田より1~2m高い場所が開田されたもので、水田一枚あたりの面積も狭い。

それに対して、ナカボリ、シンデンボリから取水している水田は、総面積は全体の90%くらいで、この両者の間に開田を区分するような構築物は見当たらないことを考えると、ほぼ同時代

の開田と思われる。ただし、二つの堀によって開田された水田面積が広いことを考えると、長時間を要したことは想像される。

このような点から推察し、享保十一年十一月の「奉待大辨才天供養」碑はオオシタボリによる開田した時のもので、以前は現在の場所とは異なった所に置かれていたものではないか。一方、宝暦十一年十二月の碑は、ナカボリ、シンデンボリによる開田碑であり、塚もこの時のもので、享保十一年の碑はこの時に移設されたものであろう。

ところで、富岡村は集落の面からみると、下富岡、乙黒、峰、大所の四つに分けられる。ここに取り上げた石碑に刻まれている農民名は富岡村と刻まれてはいるが、全て下富岡地内の農民名である。そして現在でもどの家の祖先か、ほとんど推定ができる。

そのころの下富岡の戸数であるが、残念ながら、当時の資料は入手できないので、文政6年（1823）の史料でみると富岡村全体で69戸の百姓がいたことがわかる。享保十一年は1726年で、約100年前、宝暦十一年は1761年であるから60年前の史料ということになるが、14名は下富岡の本百姓のほとんどすべてと行ってよいだろう。

いずれにしても、下富岡地内の本百姓が協力して、50年近くをかけて開田したものであろう。

私が注目したのは下富岡地内にある常秀院の名が筆頭に刻まれていることである。おそらく、資金的に相当な助力をしたことであろう。当然それは常秀院所有の水田があったことであろうが、現在では形跡を追求することは不可能となってしまった。

私がこのような推測をするのは、江戸時代のいつ頃かわからないが開田された水田が富岡3丁目地内にもあった。^{おおじよ}大所耕地と呼ばれていた。

父の話では、こちらにも寺（常福寺）の所有田があつて、小作に出していた。現在は、市営住宅等が建てられ、形跡が一部に残っているだけだが、昭和30年代までは稲作が行われていた。

このようなことから、両耕地とも開田時に地内にあるが寺が大きな役割を果たしていたことがわかるのである。残念ながら、大所耕地の史料は見つけることができない。

（文責 川鍋）

* 青梅市郷土博物館では、特別展『青梅宿』を現在、開催しております。

ぜひ、ご覧ください。

前期「町立と生活」 平成10年10月4日（日）まで

後期「文芸と祭礼」 10月20日（日）から平成11年1月31日（日）まで

入館無料 月曜日休館